HORIBA Explore the future

第87期

中間報告書

2024年1月1日~2024年6月30日

株式会社堀場製作所

証券コード:6856





ほんまもんと多様性を礎に ソリューションで未来をつくる 「MLMAP2028」初年度は 増収増益でのスタートをめざす

> 代表取締役会長兼 グループCEO はよう

HORIBAは2023年1月の創立70周年を機に新たなビジョン「Joy and Fun for All おもしろおかしくをあらゆる生命へ」を策定しました。「ほんまもん」とは、一人ひとりの好奇心と情熱をもった行動や努力の結果として生まれるものであり、「ほんもの」を越えて人の心を揺さぶる存在になっていきたいというおもいを込めています。

「ほんまもん」を生み出す技術力と、世界中のホリバリアン*'の個性が輝く多様性に満ちたチームの強みを活かし社会に貢献していく使命を誇りに、それぞれの「ほんまもん」を追求していきます。

本年は、2028年を最終年度とする中長期経営計画Mid-Long Term Management Plan「MLMAP2028」を発表しました。その中心となるのは、2023年までの「MLMAP2023」で注力した、多くの社会課題と事業機会がある市場、すなわち「エネルギー・環境」、「バイオ・ヘルスケア」、「先端材料・半導体」の3フィールドでの事業成長をさらに拡大・加速させることです。また、人財**戦略とサステナビリティ戦略を、事業と並ぶ柱として掲げました。

「ほんまもん」のソリューションを提供する礎となるのは、グローバルレベルでユニークな活動を行う人財=ホリバリアンです。多様なホリバリアンがグローバルに連携し、新たな価値を生み出します。HORIBAが提供する全てのソリューションは、その分析・計測サービスを享受して活用し事業成長を実現するお客様の活動を支えています。製品・サービスの供給元としての性能や品質、HORIBA各拠点での二酸化炭素排出削減や効率改善を実現することに加え、社会にインパクトを与え、独自性の高いHORIBA製品とソリューションの提供を通じ、持続可能な社会の実現に貢献します。

さらなる企業価値向上のために、HORIBAが注力する3つのフィールド

を軸に、カーボンニュートラルな社会の実現やあらゆる生命の健康維持、 そして新技術開発と半導体の生産効率の向上への貢献を通じ、この流れ をさらに加速させ、HORIBAの可能性をグローバルに追求していきます。

2024年度中間期における当社グループの業績は、売上高1,427億円(前年同期比8.9%増)、営業利益186億円(同4.4%増)と前年同期比で増収増益を達成しました。一方、親会社株主に帰属する中間純利益は131億円(同30.8%減)となりました。その主な要因は前年同期に関係会社株式売却益62億円を計上したことによるものです。

円安の進行による欧州や米州での売上高の円換算での増加や、エンジン排ガス測定装置の需要回復、半導体や先端材料分析需要等の拡大により、各セグメントにおいて販売が増加しました。利益面では、自動車セグメントと半導体セグメントでは販売増等により増益となったものの、その他のセグメントでは需要減や次世代技術開発投資の増加等により、減益となりました。また、1株当たりの中間配当金につきましては、80円といたしました。

これら中間期までの進捗等に鑑み、2024年8月8日に公表した最新の業績予想では、売上高3,210億円、営業利益520億円、親会社株主に帰属する当期純利益370億円とし、2024年2月に発表した予想を全社ベースでは据え置きました。1株当たりの年間配当金の予想も265円(中間80円・期末185円)と、当初予想を据え置きました。

オーナー(株主)の皆様におかれましては、倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

※1 ホリバリアン: HORIBAで働くすべての人を同じファミリーであると考え、このように呼んでいます。

※2 人財:従業員を大切な財産と考え、このように表現しています。

[MLMAP2028]

~MAXIMIZE VALUE~



HORIBAは、2028年を目標年度とする中長期経営計画「MLMAP2028」を策定しました。 「MAXIMIZE VALUE」のスローガンのもと、3つの戦略を実行し、 ビジョン「Joy and Fun for All おもしろおかしくをあらゆる生命へ」の実現をめざします。

「MLMAP2028」の詳細 は当社ウェブサイトに 掲載しております





MAXIMIZE VALUE **MLMAP2028**

エネルギー・環境 先端材料·半導体 バイオ・ヘルスケア

戦略1.3つの注力分野における社会課題解決をめざす

戦略2. ホリバリアンの力を最大限引き出す

相人

戦略3. ソーシャル・インパクトを生み出すサステナビリティ

ビジョン Joy and Fun for All おもしろおかしくを あらゆる生命へ

ミッション

ほんまもんと 多様性を礎に ソリューションで 未来を創る

財務目標

売上高

ROE 12% NA

営業利益

(2023年実績: 472億円)

サステナビリティ

当期純利益

(2023年実績: 403億円)

機動的な株主還元 30% 特別配当・自己株式の取得

非財務目標

全ホリバリアンによる バリュー実践 「ほんまもん」の価値創出 2050年 カーボンニュートラル 2032年 CO₂排出量42%削減 (Scope1, 2)

コア技術の深耕 新規ビジネス売上高 600億円(2028年)

人財 ホリバリアンの力を最大限引き出す人財戦略

ホリバリアン一人ひとりが「おもしろおかしく」の実践によりその力を 発揮し、「ほんまもん」を追求する舞台をグループ全体で創りあげる

ホリバリアンの活躍を支える様々な施策



プロジェクト











1. 力を引き出す「舞台」

3. 多様な人財がともに

成長・活躍

企業文化

の創出

としてのユニークな

HORIBA

ブラックジャックプロジェクト



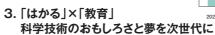


サステナビリティ

ソーシャル・インパクトを生み出す サステナビリティ戦略

ビジョン HORIBA独自の手法で、持続可能な社会実現に貢献する

- 1. HORIBA製品・ソリューションによる持続可能な社会実現 ■3フィールドにおける事業活動を通じた社会課題の解決
- 2. 持続可能なオペレーションの実現 ■2050年 カーボンニュートラル
 - ■2032年 CO₂排出量42%削減 (Scope1, 2)



■科学技術に関する出前授業等 2028年 活動年間100件以上 参加者4,500人以上(10か国以上)

フィールド

エネルギー・環境



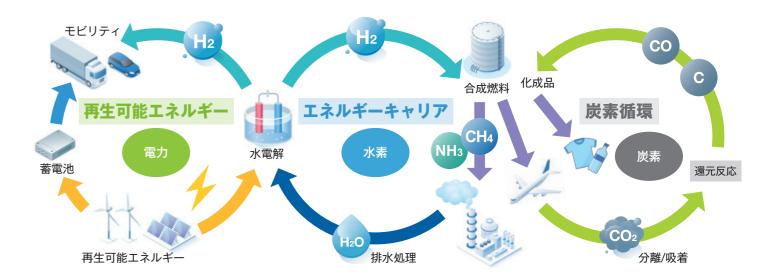
持続可能な地球環境を実現するために、 お客様の課題を解決し、 信頼される真のパートナーとなる







これまでHORIBAが培ってきた分析・計測技術とシステムマネジメント力を さらに発展させ、カーボンニュートラルの実現に大きな役割を果たします。



持続可能なカーボンニュートラル社会の実現に向け、再生可能エネルギーの活用拡大をサポートします。 あらたな二酸化炭素の発生を抑え、二酸化炭素の循環・吸脱着サイクルの実現に寄与します。二次エネルギーとして水素が 循環サイクルをつなぐ役割も果たします。

グローバル水素市場における ホリバ・フューエルコン社(独国)の 製品を核にした事業領域の拡大



電気化学変換セルの評価を中心に、 材料からシステム、生産、リサイクルまで サプライチェーン全体をHORIBA製品が支えます。

カーボンリサイクル領域における システム提案の強化





CO₂測定装置

二酸化炭素吸脱着の性能を評価します。

モビリティビジネスにおける コンサルティング力を発揮した トータルソリューションの提案



モビリティ分野における開発を、HORIBA の分析・計測技術を軸にした包括的な技術・ スキルで支援します。



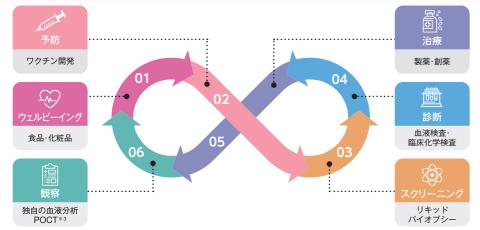
ユニークなソリューションで、 あらゆる生命のヘルスケアジャーニーを 変革し、社会価値を創造する







検体検査ビジネスでのノウハウ、多様なコア技術、グローバルネットワークを活用することで、 ユニークなソリューションを提供し、ヘルスケアジャーニーの変革に貢献します。



あらゆる生命の健康維持のため、 HORIBAは病院・クリニックでの迅 速かつ信頼性の高い検査及び医薬 品の品質・安全、生産の効率化に 貢献します。また、健康な生活か ら、予防、診断、治療、ホームケ アに至るすべてのステージを包括す るヘルスケアエコシステムの進化を サポートします。

※3 POCT (Point of Care Testing)…臨床現場即時検査

バイオ医薬品研究の前進に貢献

HORIBAならではのハイスペックな分析技術はバイオ医薬品 研究の前線にて活用されています。



ナノレベルでの 粒子径分布・濃度を





迅速かつ高感度 HORIBA独自の分析技術

[A-TEEM]

蛍光吸光分光装置

校正ツールE-Cal搭載

ラマン分光分析装置

バイオ医薬品の開発・生産工程を効率化

業界ニーズに応じて培ってきたエンジニアリング力・データ マネジメント技術により、医薬品の開発・生産プロセスの 課題を解決します。



製剤・培地迅速評価装置 製薬企業が順守する法規に準ずる データインテグリティソフトウェアを搭載 2024年内発売予定



バイオリアクターにおける 反応過程を測定

インライン 蛋白質・細胞モニター

血液検査を通じて人々の健康に貢献

日本国内では、クリニックでの臨床診断を実現するライン アップを拡充します。欧米では、大病院・検査センター向 け血液検査システムが米国FDAの承認を受け(2024年5月)、 グローバル展開を加速します。



FDA認証取得を喜ぶホリバABX社(仏国)メンバーと認証取得製品

成長市場において機器・試薬販売の拡大

インド・インドネシア等の成長市場では、ローカライズを 加速し、機器・試薬の販売等の拡大をめざします。





インドナグプールにてインド最大級の医療機器・試薬製造施設の開所式を実施

フィールド

先端材料·半導体



持続可能な社会実現に向けて、 先端材料・半導体分野への 革新的なソリューションで市場を形成する





売上高



半導体製造プロセス、先端半導体材料、ファシリティが互いに関係するバリューチェーンマ トリックス「ウーブンバリューチェーン※4」における技術革新に貢献し、全方位型のビジネス 貢献をめざします。先端材料の研究開発・大学・研究所との取り組みは将来的に量産工程に 採用され、さらなるビジネス機会に繋がります。また、「はかる」技術により工場排出計測を 通じて持続可能な社会に貢献します。

※4「ウーブン」とは、「織物」をイメージしています。HORIBAでは、半導体製造プロセスを横糸、その工程ごとに存在する関連材料市場を縦糸とし、ファシリティ も含めて複合化したバリューチェーン全体を織物に例えて「ウーブンバリューチェーン」と表現しています。

先端半導体材料

大学や研究機関との取り組みによる先端材料開発におけ る技術開発が、将来の量産工程における効率化に繋がり

従来の研究用途の分析装置だけでなく、量産工程に組み 込まれるシステムを提供します。

工程管理

微細化や工程の進化に伴いビジネス機会は増大してお り、従来から高いシェアを誇るマスフローコントロー ラーや薬液濃度モニターに加え、気化器やプロセスモニ ターによる状態監視の必要性が益々高まっています。

薄膜計測

これまで半導体工程で使用さ れていた独立した計測機器に 加え、顧客装置に搭載するの に最適化した装置、さらには 薄膜自動検査装置へと発展さ せ、量産採用の獲得をめざし、 半導体の生産性向上に貢献し ます。

先端半導体材料領域 半導体製造プロセス領域 (工程管理・薄膜計測) ファシリティ/ サブファブ領域

ファシリティ/サブファブ

現在、各デバイスメーカーは温室効果ガスや有害ガスの 削減に取り組まれています。HORIBAは「はかる」技術 を通じて持続可能な社会への貢献をめざします。

その他の先端材料アプローチ

カーボンやポリマー、さらにはリサイクル材料に関する 分析の必要性は、近年高まっており、それらの需要に対 して、材料分析を通じて貢献します。

好調なシリコン半導体だけではなく、パワー半導体や太陽電池製造工程等、HORIBAの貢献エリアは今後も広がっていき ます。「はかる」技術により先端半導体材料からその他の半導体材料領域まで、全方位型でビジネス貢献します。

中間業績ハイライト

売上高 1,427億円 ◇(前年同期比8.9%増) (単位:億円) 1,013 1,149 1,311 1,427 2020年度 2021年度 2022年度 2023年度 2024年度 (83中間期) (86中間期) (87中間期)

親会社株主に帰属する中間純利益

131億円 >>

(前年同期比30.8%減)



営業利益 186億円 △ (前年同期比4.4%增) ■営業利益(単位:億円) ●営業利益率(単位:%) 14.1 13.6 12.9 13.0 186 7.9 162 130 66 2020年度 (83中間期) 2024年度 (87中間期) 2021年度 2022年度 2023年度 (84中問期) (85中問期)

1株当たり中間純利益

312⊨ ¥

(前年同期比30.6%減)



中間連結キャッシュ・フロー計算書

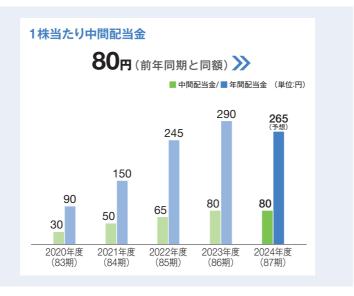
(単位:億円)

科 目	2020年度 (83中間期)	2021年度 (84中間期)	2022年度 (85中間期)	2023年度 (86中間期)	2024年度 (87中間期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	153	158	102	36	99
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 50	△ 69	△ 30	△ 12	△ 43
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 30	△ 31	△ 69	△ 185	△ 97
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 9	20	50	44	78
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,023	1,219	1,392	1,270	1,342

オーナーの皆様への利益配分について

当社は、2024年2月14日開催の取締役会において、株主還元の方針を、「株主総還元性向(配当と自社株買いの合計)を、連結純利益の30%を目途とする」から「配当性向を、連結純利益の30%を目途としつつ、投資機会と資金状況等を総合的に勘案し、特別配当や自己株式の取得を機動的に実施する」に変更いたしました。

こうした方針のもと、8月8日現在、2024年度通期の配当予想を1株当たり265円としており、このうち、2024年度中間配当金としましては、1株当たり80円といたしました。



セグメント別の状況

自動車セグメント

売上高 386 億円



日本や米州においてエンジン排ガス測定装置や、Mechatronics(自動車計測器)事業の販売が増加したこと等から、売上高は386億円と前年同期比26.4%の増収となりました。利益面では、水素ビジネスでの積極的な投資を継続したこと等から11億円の営業損失となりました(前年同期は21億円の営業損失)。

環境・プロセスセグメント

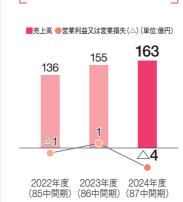
売上高 117 億円



欧州においての環境規制需要による大気汚染監視用分析装置の販売が低調であったものの、日本でのプロセスガス計測機器及び水質計測装置の販売が増加したこと等から、売上高は117億円と前年同期比3.3%の増収となりました。利益面では、欧州での販売減に加え、前年度に買収した産業プロセス計測事業の立ち上げに伴う投資負担等により、営業利益は1億円と同82.3%の減益となりました。

医用セグメント

売上高 163 億円



円安の進行により売上高が円換算で増加したこと等から、売上高は163億円と前年同期比4.9%の増収となりました。利益面では、日本での血球計数装置の販売が減少したこと等から、4億円の営業損失となりました(前年同期は1億円の営業利益)。

半導体セグメント





半導体メーカーでの設備 投資は一定の回復がみられるなか、アジアにおいて半導体製造装置メーカー向けの販売が増加しました。この結果、売上高は572億円と前年同期比1.8%の増収となりました。利益面では円安の進行に加え、アジアでの販売が増加したこと等から、営業利益は202億円と同8.4%の増益となりました。

科学セグメント

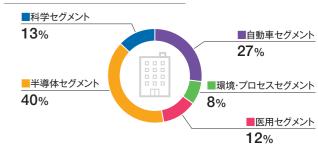
売上高 187 億円



最先端材料分析用途のラマン分光分析装置の販売が増加したこと等から、売上高は187億円と前年同期比7.9%の増収となりました。利益面では、製品売上構成の変化や、新製品開発の加速による研究開発費の増加等により、1億円の営業損失となりました(前年同期は2億円の営業利益)。

アジアや欧州において、

セグメント別売上高構成比



地域別売上高構成比



5

「Our Future」特設サイトを開設

HORIBAが未来に向かってどのような会社であり続けたいか、どのよう に社会へ貢献していくのかを示した「Our Future」(ビジョン、ミッション、 バリュー)特設サイトを開設いたしました。本サイトでは、私たちがめざす 「Our Future」をイラストや動画を使って分かりやすくお伝えしています。



「Our Future」特設サイト





https://www.horiba.com/our-future/ja/

動画「おもしろおかしくをあらゆる生命へ」



「Our Future」でめざす姿、その軸と なる社是「おもしろおかしく」をわか りやすく紹介しています。

「HORIBA Report 2023-2024」を発行

HORIBAのさらなる価値をご理解い ただきたいというおもいから、事業内容 や財務諸表とともに、財務諸表には載ら ない、企業文化等の「見えない資産」に ついて紹介する統合報告書「HORIBA Report」を発行しています。

最新版では、2024年1月に公表いた しました「Our Future」(ビジョン、ミッ ション、バリュー)と中長期経営計画 「MLMAP2028」について、詳しくご紹

介する1冊となっ ています。



https://www.horiba.com/jpn/company/investor-relations/ir-library/horiba-report/

HORIBA Report

Q 検^図



株式の状況

株式の状況 (2024年6月30日現在)

発行可能株式総数 100,000,000株 発行済株式の総数 42,233,252株 ¥ 9.105名

株主構成



大株主一覧 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,285	12.60
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,244	7.73
全国共済農業協同組合連合会	1,682	4.01
	1,092	2.60
株式会社京都銀行	828	1.97
堀場洛楽会投資部会	822	1.96
京都中央信用金庫	770	1.84
	715	1.71
	645	1.54
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140044	636	1.52

(注)持株比率は自己株式(280.649株)を控除して計算しています。

表紙写真



撮影者: 松井 秀雄

ー オーナーメモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日 定時株主総会 期末配当	毎年12月31日
中間配当	毎年6月30日
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	Tel:0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間:9:00~17:00(土日休日を除く)
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	6856
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ(https://www.horiba.com/jpn/)に掲載いたします。 ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じた 場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

▶住所変更、単元未満株式の買取等の お申出先について

口座のある証券会社にお申出ください。 なお、証券会社に口座がないため特別口 座が開設された方は、特別口座の口座管 理機関である三井住友信託銀行株式会 社にお申出ください。

▶未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀 行株式会社にお申出ください。



MLMAP2028 シンボルマーク

蝶は姿を変え成長し、羽で空気の流れを感じ、 舞う。HORIBAは、社会の変化を機敏に捉え、 提供する価値を最大化し、よりよい未来の実現 に向けて飛翔します。

株式会社堀場製作所

京都市南区吉祥院宮の東町 2番地 7601-8510 Tel: (075) 313-8121 https://www.horiba.com/jpn/ この印刷物は、環境に配慮し 植物油インキを使用しています。



Explore the future